

●日時・場所

- 4月18日（金）13：30～ 月舘ふるさとふれあいホール
- 4月22日（火）13：30～ 伊達中央交流館
- 4月23日（水）13：30～ 梁川中央交流館
- 4月24日（木）13：30～ 保原市民センター
- 4月25日（金）13：30～ 霊山中央交流館

●市長あいさつ要旨

本日は、大変お忙しい中、行政推進員会議ならびに事業説明会に参加をいただきましてありがとうございます。

皆様には、今年1年、行政推進員として、行政と地域の橋渡し役という重要な役割を担っていただくこととなりますので、よろしくお願ひします。

また、当地域は自治意識が高く、自治会活動や町内会活動が活発に行われております。これも地域の皆様のおかげであり、心から敬意を表します。

伊達市は、歴史や自然などの宝庫であります。JRのディスティネーションキャンペーン（DC）が開催され、今年はプレDCとなりますので、市内外に積極的にPRを行っていきたいと考えています。

さて、伊達市は、平成18年に合併して、今年で20年目になります。この20年間は災害が多い期間でもありました。平成23年の東日本大震災と原発事故により、大きな被害と風評被害がありました。令和元年には東日本台風により農地などに被害がありました。さらに、令和3年と令和4年の2年続けての福島県沖地震があり、多くの家屋で被害を受けました。また、令和2年から新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限がありましたが、地域の皆さんが地域活動を絶やさないという意識があったことで、今はイベントがもとに戻り、地域が活性化されています。

災害はいつ発生するかわかりませんので、これからも災害に備えた安全安心のまちづくりを進めたいと思っています。そのために、市民の意識を高めていくことが重要です。災害が起きた時の避難ルートや避難場所をしっかりと確認していただきたいと思います。そして、市では、安心して避難生活を送れるよう、避難所の整備と運営を進めてまいります。また、避難することが難しい避難行動要支援者を支えるための計画を作っておりますので、地域の皆様にもご協力をお願いいたします。

地震災害では、水道管が被害を受けやすいですが、伊達市では水道管の耐震設計が施されているため、通常の地震では心配ありません。しかし、震度6以上の

大きな地震では破損する可能性もあります。このため、福島県や宮城県の一部自治体と協力し、漏水箇所を迅速に把握するため、人工衛星を使った調査を行います。万が一、漏水が発生した場合には、速やかに確認できる体制を整えていきます。

産業分野において、農業生産額が過去最高の売り上げを達成しました。JAふくしま未来では333億円の売り上げがあり、その中でも伊達市では、桃、イチゴ、ブドウ、きゅうりといった農産物の生産が多く、これらが大きな割合を占めていると考えています。農業の活性化は、食品加工や資材、運搬などの関連分野にも好影響を与えるため、今後も生産の増加を支援していきたいと考えております。

また、工業分野においては、保原地域内に造成された工業団地に6社の新たな工場が決まりました。高速道路が全線開通したことにより、高速交通体系が整い、工業団地や住宅団地の開発が進み、沿線が地域住民や企業からも注目されています。

イオンモールは、来年の下期にオープンする予定となっております。イオンモールの開業により、大きな集客力と雇用が確保され、伊達市の経済発展と地域活性化に大きく寄与すると見込まれています。伊達市では、イオンモール内にアンテナショップを設置し、地域の特産品や観光名所などを紹介する取り組みを進め、訪問者がイオンモール内だけではなく、伊達市内を回遊してもらう取組を進めていきたいと考えています。

公社関係についてお話しします。伊達市には、6つの一般社団法人などの公社がありました。今年4月1日に統合し、一般社団法人伊達市振興公社が発足しました。りょうぜん紅彩館やつきだて花工房などの宿泊施設は、それぞれの公社ごとに管理運営してきましたが、同じ業種を一本化することで効率的な経営が可能となります。また、物販や観光についても伊達市全体としての発展が重要となります。スポーツ部門についても、これまでのスポーツ振興公社を伊達市振興公社に統合することで、スポーツを通じた地域活性化や交流促進が図られると考えています。伊達市振興公社は、総務部、宿泊部、物販観光部、スポーツまちづくり部の4つの部門に編成し、新たにスタートしたところであり、伊達市全体として効果的なPR活動や地域活性化を進めていきたいと考えております。

現在、物価高と厳しい経済状況の中で、今年も家庭と商店街などの支援としてプレミアム率50%の商品券を発行する予定です。これに加えて地域活性化を図るため、今年9月には、伊達鶏、川俣シャモ、会津地鶏のふくしま三大ブランド鶏をテーマとしたイベントや霊山太鼓まつりを開催しますので、地域の皆様と協力して盛り上げていきたいと考えています。

それでは、令和7年度の事業説明について説明させていただきます。伊達市では、第3次総合計画に基づき事業を進めています。今年度は、若者支援、子育て支援、健幸支援、シビックプライドの4つを重点政策として進めていきたいと考えております。若者が地元に着定するためには、働く場の創出や子育て施策の推進、そして、全ての人々が健幸に暮らせるまちづくりが必要です。さらには、霊山などの自然や歴史、美味しい農産物など、伊達市のすばらしい魅力を地域内外に発信し、伊達市の魅力を広めていきたいと考えています。市民の皆様にもご協力をいただき、シビックプライドの醸成を進めていきたいと考えています。（以下、事業説明書の資料のとおり）

【月館地域：質疑応答】

■七ツ森林道について

行政推進員：七ツ森林道の道路について、予算がついたと聞いたが、どのような予算が付いたのか。

産業部長：七ツ森林道に関する予算については、個別にお話を伺い、確認させていただきたいと思います。

■テレビ塔について

行政推進員：御代田のテレビ塔に上る道路（林道）に木などが生い茂り、上りづらくなっているため、なにか予算をつけて整備していただきたい。

産業部長：テレビ塔に上がっていく道路について、現地確認等を行い対応させていただければと思います。

■伊達市の看板について

行政推進員：月館と川俣の境に伊達市の看板はあるが、月館という看板がないため、月館の看板を設置してほしい。

建設部長：月館地域の看板になりますが、月館も伊達市と一体的という考えで、伊達市の看板を設置している状況です。月館地域の認知を高めるための表示として、看板以外にも明示板のような柔軟な表示方法を検討していければと思います。また、道路の敷地内に設置するかなども併せて検討していきたいと思います。

【伊達地域：質疑応答】

■ごみの収集について

行政推進員：例年、週1回収されていたプラスチックごみが、4月からは隔週での回収となった。ルールの変更が浸透しておらず、間違っただ日にプラスチックごみを出す人も散見されるほか、面倒だからと燃えるごみとまとめて捨てるという意見も聞こえてくる。なぜ、今年度からルールが変更となったのかお聞きしたい。

市民生活部長：伊達市は、県内自治体と比較しても1人1日あたりのごみの排出量が多い状況です。また、近年の物価高騰の影響から、ごみの収集や運搬にかかる委託費用が大きくなっております。そこで、他の自治体の成功例にならい、本市でもプラスチックごみの収集を2週間に1回と変更し、ごみの減量化に取り組んでおりますのでご協力をお願いします。

■ごみの減量化について

行政推進員：コンポストの導入により、ごみの減量化に取り組むところであるが、住民がゴミの減量化に取り組む意識を高めるようなシステムを作っていただきたい。

市民生活部長：市民一人一人のごみ減量化への意識を高めるのは大切です。そのため、今年からこのような取り組みを始めました。まずは、市民の皆様が伊達市のごみの排出量が県内自治体でも多いということをお知らせしながら、ゴミ減量化の意識を高めていければと思います。

■電池の回収について

行政推進員：電池の回収について、発火の危険性がある。回収方法について伊達市の方針についてお伺いしたい。

市民生活部長：リチウムイオン電池の発火リスクについては、市としても認識しており、市全体で安全な回収方法を現在検討しています。具体的には、小型家電リサイクルの回収箱を各総合支所や中央交流館に設置しているように、リチウムイオン電池用の回収設備を導入できないか検討中です。今後、これらの検討を迅速に進め、安全対策を考慮した回収方法を市民の皆様にご周知してまいります。

■住宅地図の取り扱いについて

行政推進員：聖光学院の近くにある生協団地の案内板（住宅地図）がある。いつ作成したのかも分からず、更新がされていない。防犯の理由等で載せたくないという人もいる。まず、案内板（住宅地図）はどこが管理しているのか、また、案内板は必要なのか。

伊達総合支所長：案内板の管轄については、補助金等で作成した可能性もありますので、それも含めて確認させていただきます。案内板の必要性については、他の地域でも同じような話を伺ったことがあり、撤去したという事例を聞いております。その件に関しては町内会長と相談して決めていきたいと思っております。

■生協団地近くの住宅について

行政推進委員：生協団地に隣接している場所に15軒ほど住宅が建つと聞いた。その場所はどこの自治会に入るのか。自治会の事務処理等もあるため、情報が分かったら教えてほしい。

建設部長：民間で予定している宅地の造成について、市で把握していないため、内容を確認し、分かり次第共有したいと思っております。

【梁川地域：質疑応答】

■寄付の件について

行政推進員：緑の羽根や歳末助け合い募金などの寄付について、減っても問題はないか。寄付であって強制ではないと思う。件数と金額を達成できなくてもよいか。

産業部長：目標金額は国や県で定めているものであり、目安の金額を決めて、運動を広げていきたいと思いますという目的となっております。地域の結びつきが希薄になる中、件数達成が難しい場合等は市にご連絡いただき、ご協力いただける範囲でお願いできればと思っております。

■古紙回収の上乗せ補助について

行政推進委員：古紙回収の補助がなくなり、ごみ処理機の導入に切り替わった経緯についてお聞きしたい。

市民生活部長：古紙回収の上乗せ補助については廃止となりましたが、リサイクル業者からのお支払いは、これまで通り続けておりますので、紙ごみに関しては、引き続きリサイクル業者へ引き渡していただければと思います。また、今年度からはごみの減量化にあたり、生ごみ処理機の購入補助を実施し、支援していきたいと考えております。

■今後のごみ問題の対策について

行政推進員：町内会を退会した方のごみの捨て方について他県では裁判にもなっているが、ごみの捨て方等に関する対応方法についてお聞きしたい。

市民生活部長：他県において、町内会を退会された方がごみステーションにごみを捨てたことが裁判になっている等の問題は把握しております。行政としては町内会に所属していない方々にごみの捨て方について強く指導することは難しい状況です。そのため、市としては情報の把握に努めていきたいと考えております。

■349号線（五十沢から宮城）の工事について

行政推進員：349号線の工事の期間は決まっているのか。

建設部長：349号線の兜橋から丸森までの区間については、令和7年度に工事が終了する予定です。兜橋から2km区間については、現在計画策定中ですので、地質調査や測量等などを行い工事が進められるよう要望していきたいと思います。

■骨髄移植ドナーについて

行政推進員：人工透析をしている方に自分の腎臓を移植する場合等の支援も検討していただきたい。

健康福祉部長：骨髄移植ドナー支援事業については、これまで福島県で行っていた事業であり、令和7年度から県の補助金に市が上乗せで支援するものです。今回お話いただいた腎臓等の移植についての支援は県の補助制度などを確認しながら検討を進めさせていただきます。

【保原地域：質疑応答】

■消防団活動について

行政推進員：消防団の準中型自動車免許取得補助について、免許の取得には時間がかかるため仕事を休んで教習所等に通う必要がある。その点について理解をいただけるように、市から勤め先等への呼びかけはしてもらえるのか。

危機管理担当参事：免許取得に限らず、消防団活動においては休暇取得が必要になると思われます。市としましては、引き続き商工会を通じて各事業所へご協力を依頼してまいります。

行政推進員：消防団の準中型自動車免許取得補助について、団員で準中型自動車免許を持っているがオートマチック限定の人についても、限定解除にかかる費用を補助してもらえるのか。

危機管理担当参事：本補助制度は、市が配置している消防車両を活用し消防活動にあたっていただくことを目的としています。そのため、消防車両の運転に必要であれば、限定解除であっても補助の対象となりますので、ご相談をいただければと思います。

■生ごみ処理機購入補助について

行政推進員：生ごみ処理機購入補助について、補助の詳細を教えてください。

市民生活部長：ごみの減量化推進のため、生ごみ処理機を購入した世帯につき、購入金額3分の2、上限4万円を補助するものとなっております。生ごみ処理機にもコンポストや電気に繋ぐものなど、さまざまな種類がありますが、どのタイプであっても補助の対象となります。補助を活用して購入を検討される場合、生活環境課に詳細をご確認いただければと思います。

【靈山地域：質疑応答】

■靈山総合支所の駐車場について

行政推進員：現在、靈山総合支所の新築工事が進んでいるが、駐車場の広さは変わるのか。

靈山総合支所長：計画としては、工事前と同様の駐車スペースは確保できております。イベント等で使用する場合には、状況を見て、その都度対応を検討したいと思います。

■地域活動の参加者不足について

行政推進員：道路愛護デーについて、私の地域では、先日8人しか参加しなかった。今後も高齢化により参加者が減ると予想されるが、今まで通り続けなくてはいけないのか。

靈山総合支所長：ご協力をいただいている方々の高齢化が進んでいることは承知しております。今後、各地区の現状等をお聞きしながら、対策等を考えていきたいと思っております。きれいな靈山町を維持していくためにも可能な範囲での取り組みにご協力をお願いしたいと思います。

行政推進員：高齢化による地域活動の人手不足は今に始まったことではない。今対応を検討しているようでは遅いのではないのか。

靈山総合支所長：河川や道路の法面などの危険で対応が困難な箇所につきましては、ご相談いただければと思っておりますので、可能な範囲でご協力をいただければと思っております。

■靈山こどもの村での飲食店の出店について

行政推進員：ゴールデンウィーク期間のこどもの村には、たくさんの方が訪れるが、食事できるところがほとんどない。キッチンカーなどの出店を考えてみてはどうか。

靈山総合支所長：管理をしております振興公社に相談していきたいと思っております。なお、靈山新緑まつりにはキッチンカーや伊達鶏の会による出店を予定しておりますので、こういったものも広く周知してまいります。